

川崎臨海部の活性化を牽引する 戦略的な拠点形成及び交通機能強化 (計画名称)

社会資本総合整備計画の事後評価について



川崎市臨海部国際戦略本部 拠点整備推進部

目次

1. 川崎臨海部の活性化を牽引する戦略的な拠点形成及び交通機能強化

2. 社会資本総合整備計画

3. 各計画事業の進捗状況

4. 評価指標等の達成状況

5. 総合的な所見

6. 今後の方針

1. 川崎臨海部の活性化を牽引する戦略的な拠点形成及び交通機能強化

● 背景・課題

川崎臨海部では、我が国を代表する産業拠点の形成に向け、羽田空港や川崎港、首都高速道路等の陸海空の交通結節機能等を活かし、既存産業の高度化・高付加価値化や、研究開発機能、環境・ライフサイエンス分野等の先端産業の集積・創出などによる持続的な発展が必要である。

また、臨海部の持続的な発展に向け、産業活動や就業者の通勤等を支える公共交通の機能強化が必要である。

● 殿町キングスカイフロントにおける都市機能の更なる充実・集積

殿町キングスカイフロントにおいては、研究施設等の集積や多摩川スカイブリッジの開通に合わせ、良好な景観形成、研究者等の交流促進や国内外からの来訪者に配慮した機能など、我が国の成長戦略拠点として相応しい高水準・高機能な拠点整備を進める必要がある。

● 臨海部の交通機能強化

川崎臨海部へのアクセスは川崎駅からのバス交通への依存度が高く、駅前広場が飽和し、ピーク時のバス車内が混雑するなど、交通環境の改善が求められており、川崎アプローチ線等の新たな基幹的な交通軸の整備や大師橋駅前交通広場の整備などの交通拠点機能強化が必要である。また、新たに整備された多摩川スカイブリッジを活用し、羽田空港周辺との一体的な成長戦略拠点の形成を支えるバス等の新たな交通ネットワークの形成が必要である。

● 塩浜3丁目周辺地区における都市機能の集積と都市基盤の充実

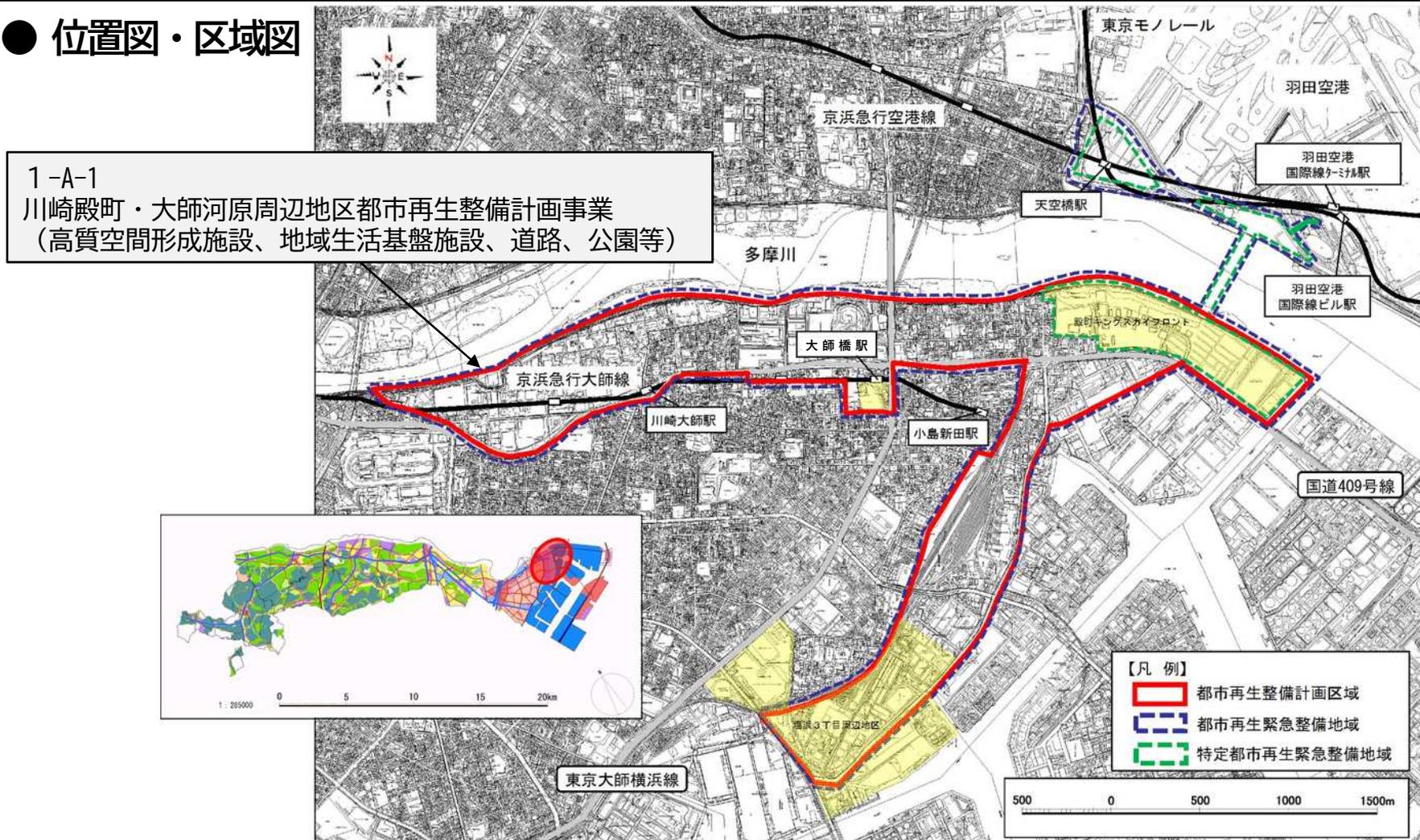
塩浜3丁目周辺地区においては、公共施設の老朽化等に伴う再編整備に合わせ、臨海部の憩い・交流機能の導入など臨海部のサポートエリアとして相応しい機能導入を進めるとともに、地区の魅力をも高める道路等の基盤整備を進める必要がある。

1. 川崎臨海部の活性化を牽引する戦略的な拠点形成及び交通機能強化

● 目的

我が国の国際競争力の強化を先導し、川崎の力強い産業都市づくりを推進するため、国内外の人、モノ、情報が行き交う都市機能の集積により、川崎臨海部の機能転換を牽引する拠点整備を進めるとともに、交通結節機能やネットワークの充実による交通機能強化を図り、誰もが快適で賑わいのあるまちづくりを進める。

● 位置図・区域図



1. 川崎臨海部の活性化を牽引する戦略的な拠点形成及び交通機能強化 ～上位計画①～

●川崎市総合計画（第3期実施計画）

施策4-4-1 臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備

【事務事業：サポートエリア整備推進事業】

臨海部の機能強化に向けて、交通環境や地域環境の向上に寄与するサポートエリアの整備を推進

- 大師橋駅駅前交通広場整備に向けた取組みの推進
- 「塩浜3丁目周辺地区土地利用計画」に基づく臨海部の活性化に向けた取組の推進
 - ・基盤整備に向けた取組の推進

【事務事業：戦略拠点形成推進事業】

臨海部の持続的な発展を牽引する次世代の柱となる新産業創出拠点形成に向けた取組の推進

- 国際戦略拠点にふさわしい高水準・高機能な拠点整備の推進
 - ・電線類地中化や憩い交流機能の導入など拠点整備の推進

●川崎市都市計画マスタープラン

戦略的な産業振興と基盤整備を促進し、臨海部の活性化を目指す。

- 臨海部の活性化を目指した土地利用の誘導
 - （大師橋駅前地区） 駅前広場や道路などの基盤整備を促進し、臨海部への交通アクセスの向上を図る
 - （塩浜3丁目周辺地区） 地区の土地利用を支える基盤整備や殿町3丁目地区などの戦略拠点を支援・補完する機能の導入などを図る
- 臨空・臨海都市拠点の形成（殿町・大師河原地域） 多摩川に面した憩いと緑豊かな良好な都市環境を形成しつつ、公民連携によるインフラ整備により、国際競争力の強化を先導する中核拠点の形成を図る

1. 川崎臨海部の活性化を牽引する戦略的な拠点形成及び交通機能強化 ～上位計画②～

●臨海部ビジョン

【目的】

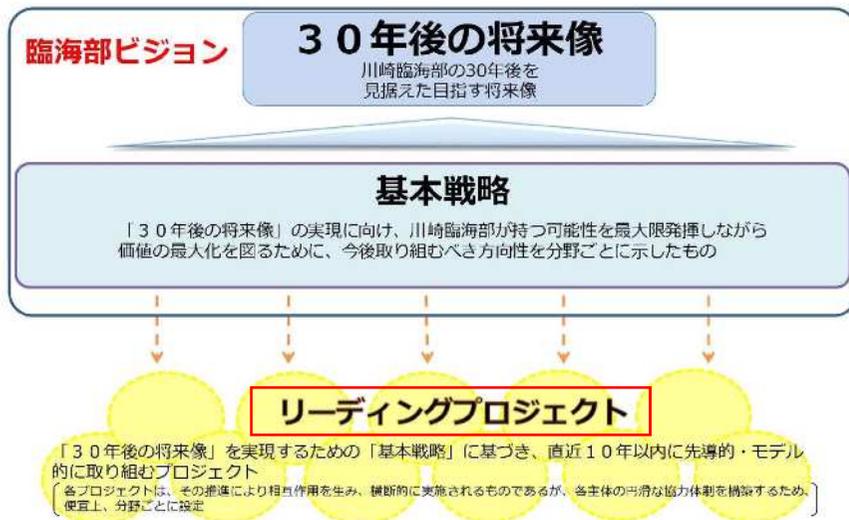
川崎臨海部を、川崎市のまちづくりの基本目標のひとつである「力強い産業都市づくり」の中心的な役割を担う地域として、さらには日本の成長を牽引する「産業と環境が高度に調和する地域」として持続的に発展させるため、30年後を見据えた臨海部の目指す将来像やその実現に向けた戦略、取組の方向性を示す。

SUPER HYBRID FRONT KAWASAKI



30年後の川崎臨海部のイメージ「臨海部ビジョン」から)

<ビジョンの構成>



<リーディングプロジェクト抜粋>

⑦ 働きやすく暮らしやすい環境づくりプロジェクト

臨海部で活躍する働く人材を呼び込むため、企業の就労環境の向上とともに、良好な都市環境や就業者・市民にとって必要な機能の導入などの働きやすく暮らしやすい環境づくりを進めます。

⑪ 交通機能強化プロジェクト

- ・交通ネットワークの核となる交通拠点の構築とともに、臨海部の基幹的交通軸の強化を図ります。
- ・臨海部の持続的な発展を支え価値を向上させる交通機能の強化を図ります。

1. 川崎臨海部の活性化を牽引する戦略的な拠点形成及び交通機能強化 ～取組概要～

都市再生整備計画事業（川崎殿町・大師河原周辺地区）に関する各計画事業の位置付け

●大師橋駅駅前周辺地区

- ・臨海部の交通機能強化に向けた実施方針

<位置付け>

臨海部の新たな交通ネットワークの形成に向けて、基幹的交通軸と羽田空港方面、東扇島方面とを結ぶ端末交通との結節機能を備えた交通拠点



大師橋駅 駅前交通広場イメージ

●殿町3丁目地区

- ・殿町3丁目地区整備方針

<整備に関する方針>

「環境空間の骨格となる歩行者空間・オープンスペースの整備」等の実現に向け、歩行者等ネットワーク、オープンスペース等の確保を図る。



殿町第2公園

●塩浜3丁目周辺地区

- ・塩浜3丁目周辺地区土地利用計画

<位置付け・整備の方針>

・土地利用を支える基幹的道路交通の拠点機能の安定的稼働および需要に対応した臨海部バス機能の強化への対応として、塩浜26号線の拡幅整備を図る。



基盤整備の方針図等

2. 社会資本総合整備計画 ～計画概要①～

● 計画の名称

川崎臨海部の活性化を牽引する戦略的な拠点形成及び交通機能強化

国際拠点空港である羽田空港に近接する大田区羽田空港南地区、川崎市殿町・大師河原地区において、羽田空港への近接性や多摩川に面した優れた地域特性を活かし、公民連携によるインフラ整備と、適切な土地利用の誘導により、都市機能の集積を進め、東京圏のビジネス機能、新産業創造・発信機能を支え、日本経済の持続的な発展を牽引する国際競争拠点を形成

● 計画事業概要

- ◆要素事業名：都市再生整備計画事業（川崎殿町・大師河原周辺地区）
- ◆計画期間：令和元年度～令和5年度（第I期）
- ◆事業地区：
 - ・大師橋駅前周辺地区
 - ・殿町3丁目地区（キングスカイフロント）
 - ・塩浜3丁目周辺地区

● 計画事業費

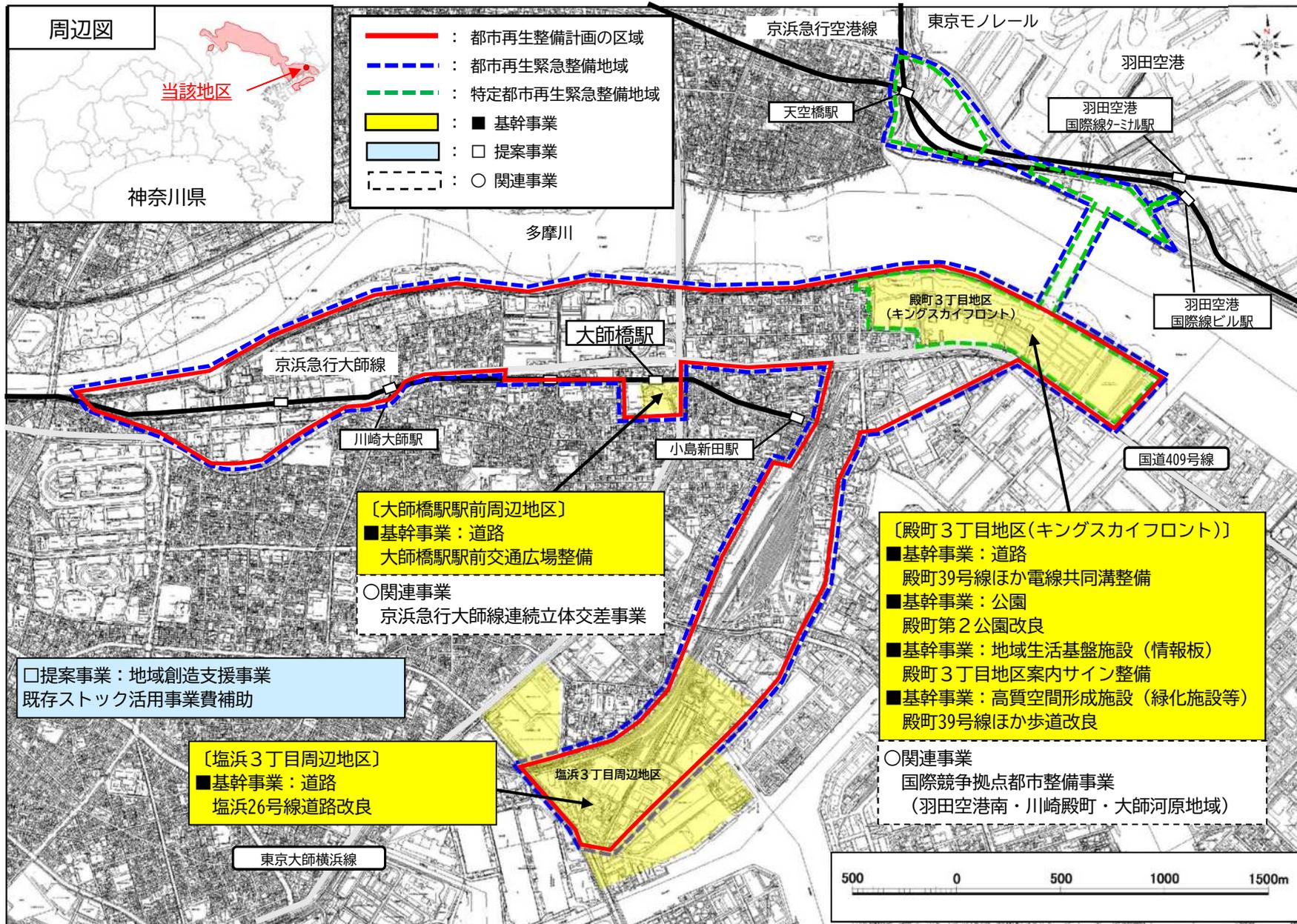
1,122.6百万円（国費470.3百万円、市費652.3百万円）※令和5年9月時点

◆国の交付金を活用する主な事業 ※次ページ図面資料参照

● 事業の成果指標

- ・川崎駅から臨海部（東扇島西公園）への通勤所要時間（往復）
【当初(H28)現況値】 78分 → 【最終目標値】 67分
- ・京急大師線大師橋駅の乗降者数
【当初(H28)現況値】 10,100人/日 → 【最終目標値】 11,100人/日

2. 社会資本総合整備計画 ~計画概要②~



2. 社会資本総合整備計画 ～事業計画及び進捗状況～

●事業計画及び進捗状況（3事業）

今回の事業評価

■：当初

■：実績

■：予定

			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
大師橋駅地区	駅前交通広場	計画		整備・完成						
		実績					整備・完成			
殿町地区	道路	計画	電線共同溝整備							
		実績	電線共同溝整備				電線共同溝整備			
	公園	計画	殿町第2公園改良							
		実績		殿町第2公園改良						
	基盤施設	計画			地区案内サイン整備					
		実績				地区案内サイン整備				
高質空間	計画	歩道改良								
	実績		エントランス部				エントランス部以外			
塩浜地区	塩浜26号線	計画	下水道設計	道路設計	下水道等占用工事	道路整備				
		実績	下水道設計	道路設計	下水道工事	占用工事	道路整備			

3. 各計画事業の進捗状況

～大師橋駅前周辺地区①～

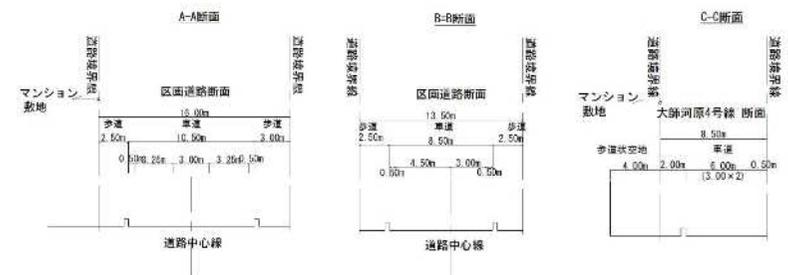
●事業概要

- ・川崎臨海部の目指す将来像を示した「臨海部ビジョン」及び臨海部の発展を支える交通機能強化の実現に向けた「臨海部の交通機能強化に向けた実施方針」に基づき、臨海部の交通ネットワークを強化する交通拠点整備として、大師橋駅前交通広場整備事業を進めている。
- ・多摩川スカイブリッジを利用した羽田空港周辺地区と川崎臨海部を結ぶ新たな交通ネットワークとして、大師橋駅発着のバス路線再編計画やタクシー・一般車等の乗降場整備など、交通機能の強化を図っている。

平面図



横断面図 (交差点改良)



イメージパース



3. 各計画事業の進捗状況

～大師橋駅前周辺地区②～

●整備スケジュールの変遷

- ・ 大師橋駅では、京急大師線連続立体交差事業を進めているが、本整備事業と近接しているため、事業間による密な調整が必要となっている。
- ・ 駅前広場整備予定地を連立事業の施工ヤードとして使用しているため、整備の着手には、連立事業の事業進捗が密接に関係している。

○当初スケジュール（H27年度）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考
連続立体交差事業	整備・完成							
駅前交通広場事業		整備・完成						

○変更①（R1年度末）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考
連続立体交差事業	整備・完成	延伸						延伸理由：鉄道の地下切替時期の変更に伴い、駅舎整備が令和2年度以降も継続することとなったことから、駅舎建築計画の変更等に時間を要したため
駅前交通広場事業				整備・完成				

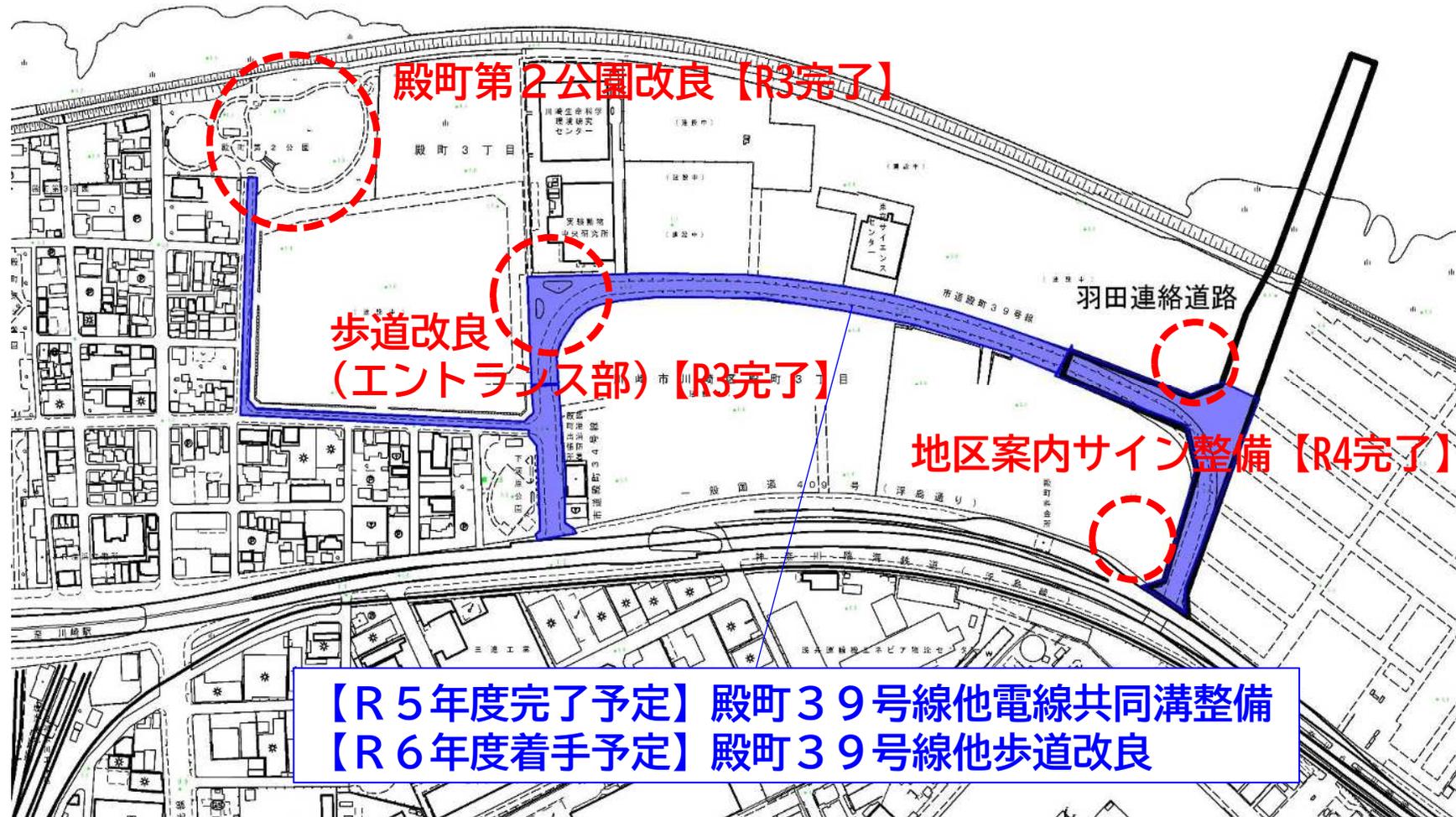
○変更②（R2年度末）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考
連続立体交差事業	整備・完成	延伸						延伸理由：事業費検証作業等による駅舎工事着手の延伸等
駅前交通広場事業					整備・完成			連立事業完了前に施工可能な箇所から先行着手できるよう計画

3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ①～

●事業概要

・殿町キングスカイフロントでは、研究施設等の集積や多摩川スカイブリッジの開通に合わせ、良好な景観形成、研究者等の交流促進や国内外からの来訪者に配慮した機能など、我が国の成長戦略拠点として相応しい高水準・高機能な拠点整備を進め、都市機能の更なる充実・集積を図っている。



3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ②～

●事業概要 (市単独事業など)

・殿町キングスカイフロントでは、研究施設等の集積や多摩川スカイブリッジの開通に合わせ、良好な景観形成、研究者等の交流促進や国内外からの来訪者に配慮した機能など、我が国の成長戦略拠点として相応しい高水準・高機能な拠点整備を進め、都市機能の更なる充実・集積を図っている。



3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ③～

●事業概要 (市単独事業など)

・殿町キングスカイフロントでは、研究施設等の集積や多摩川スカイブリッジの開通に合わせ、良好な景観形成、研究者等の交流促進や国内外からの来訪者に配慮した機能など、我が国の成長戦略拠点として相応しい高水準・高機能な拠点整備を進め、都市機能の更なる充実・集積を図っている。



地区案内サイン
【H29完了】



多摩川沿い憩い・交流空間
(ウッドベンチ) 【H30完了】



ゲートサイン整備
【H30完了】



「殿町第三公園入口」
交差点高架下の照明
(国) 【H30完了】



交番設置 (県)
【R1完了】



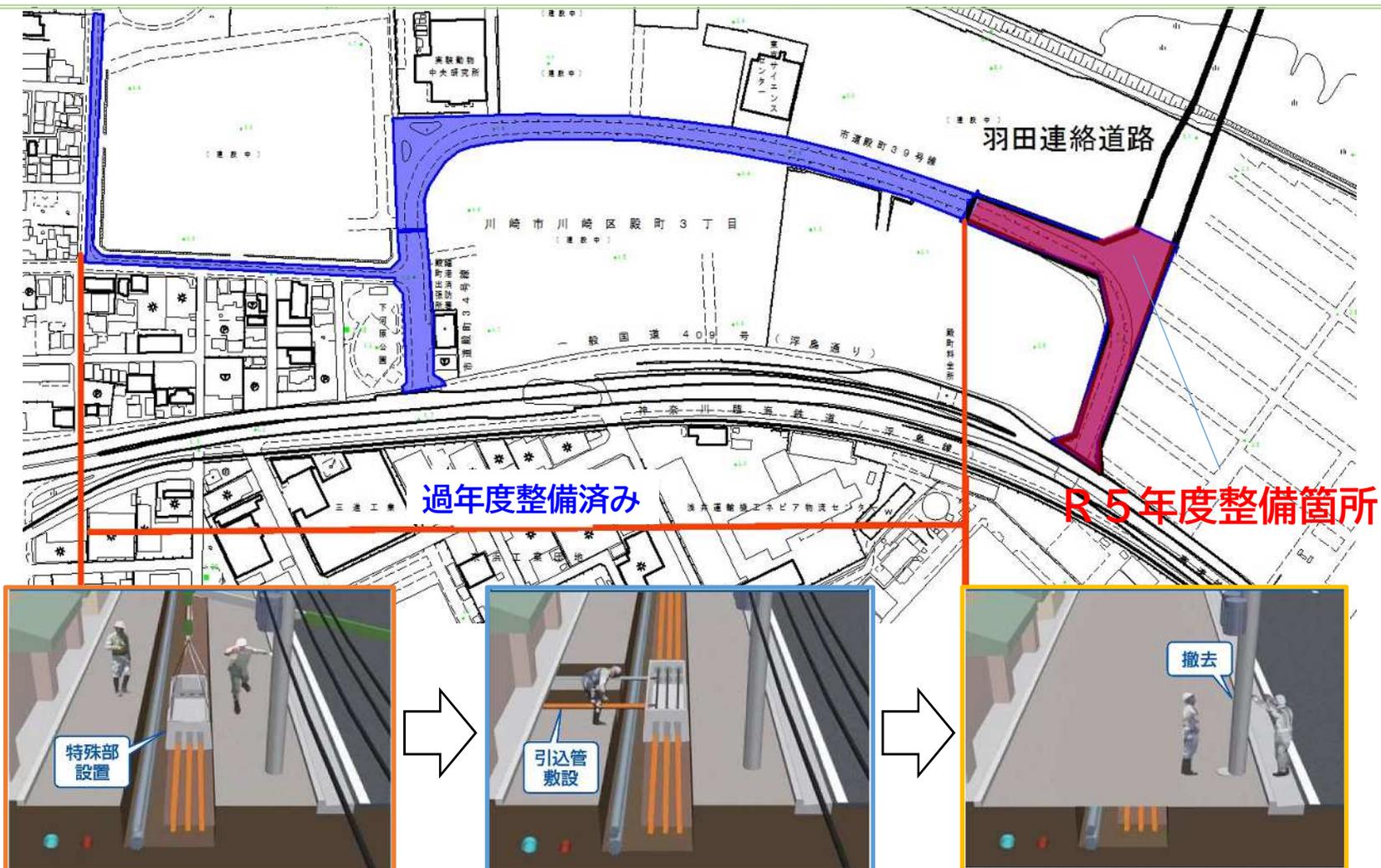
殿町第3公園改良
バス上屋整備 【R4完了】
【R4完了】



3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ④～

●殿町39号線他電線共同溝整備

・国の成長戦略拠点として研究機関等から選ばれる拠点形成に向け、研究・業務等の継続性の向上や防災対策の観点から、地区内の無電柱化を推進している。

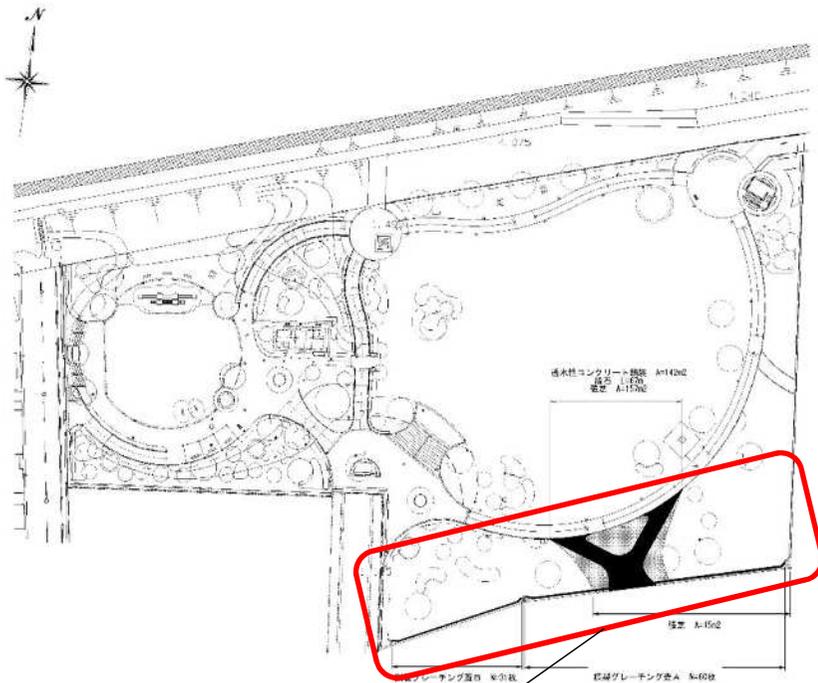


【整備イメージ】

3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ⑤～

●殿町第2公園改良

・行政と民間事業者が相互に連携した交流促進機能等の導入を推進するため、殿町第2公園と隣接地の一体的な利活用に向けた整備を行った。



フェンス撤去、園路整備、植栽整備、盛土擦付、U型側溝撤去・新設等



【整備前】

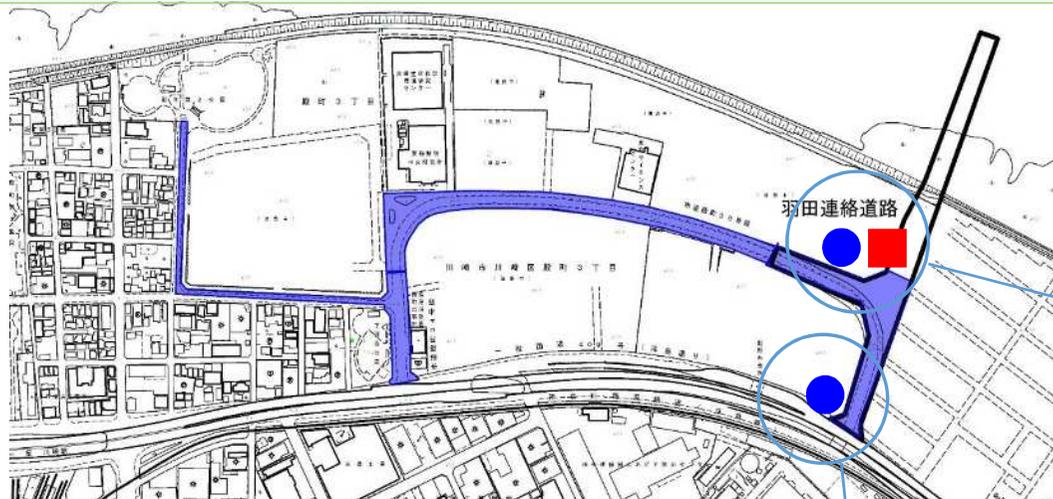


【整備後】

3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ⑥～

●地区案内サイン整備

・国の成長戦略拠点として研究機関等から選ばれる拠点形成に向け、本地区へのアクセス性及び来訪者の利便性向上のため、案内誘導サイン及び地区案内サインを設置した。



- 地区案内サイン 1基
- 案内誘導サイン 2基

【整備後】



【案内誘導サイン】

【整備後】



【案内誘導サイン】

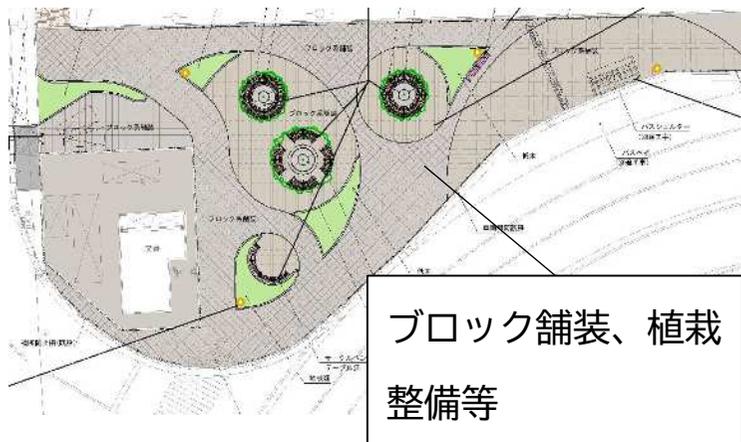
【地区案内サイン】

3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ⑦～

●殿町39号線ほか歩道改良 (エントランス部)

・キングスカイフロント入口交差点方向からの歩行者動線を意識し、エントランスの顔としてシンボルツリーを設置するとともに、就業者や来訪者の憩い・交流空間を整備した。(憩い・交流空間の整備内容の一部変更により計画変更)

【計画平面図】



【整備前】



【整備後】



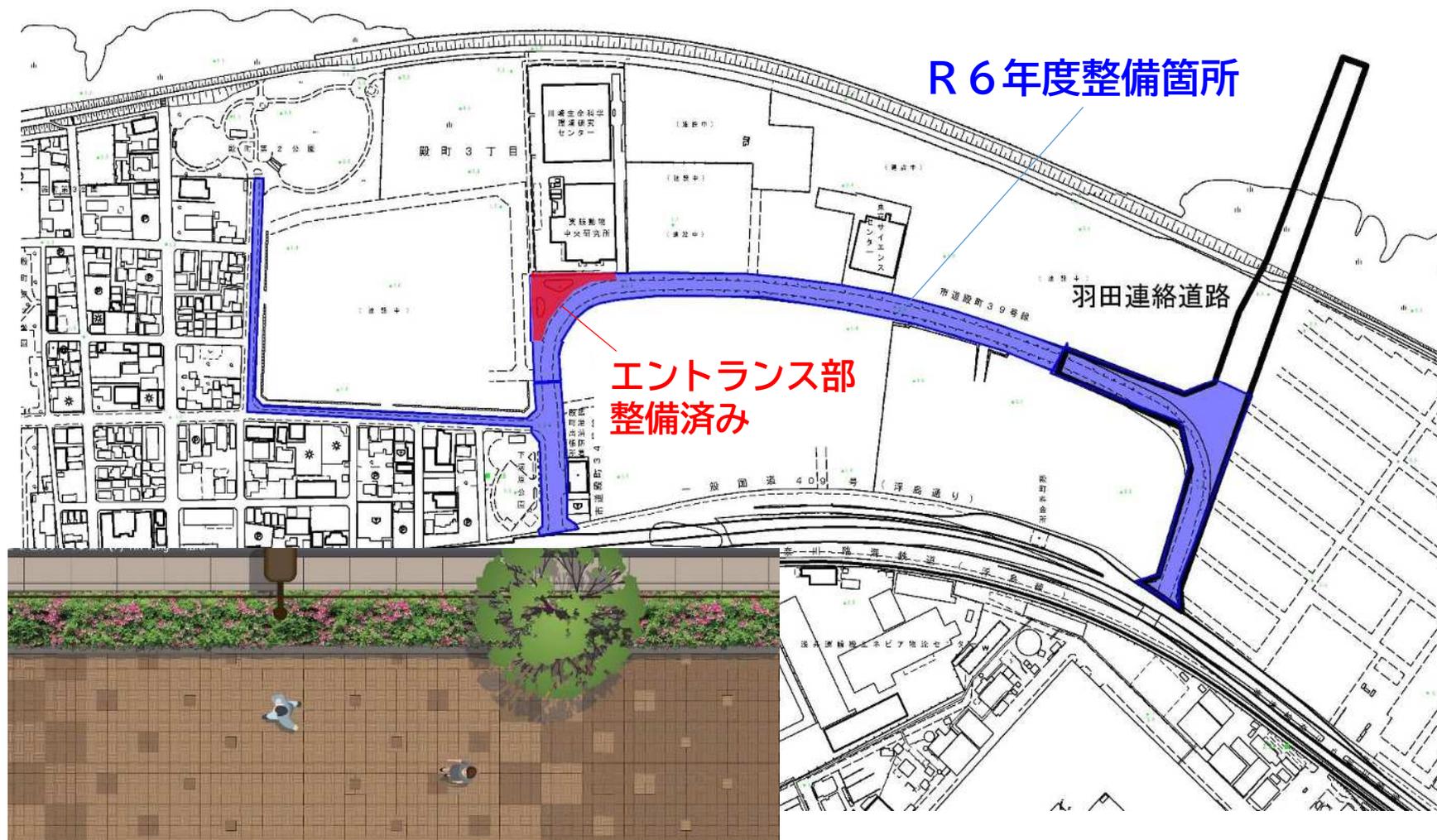
【整備後】



3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ⑧～

●殿町39号線ほか歩道改良

・国の成長戦略拠点として研究機関等から選ばれる拠点形成に向け、良好な景観形成の観点から、地区内の歩道部のインターロッキング舗装を推進している。



平板ブロック舗装（歩道部）

3. 各計画事業の進捗状況 ～殿町3丁目地区(キングスカイフロント) ⑨～

●整備スケジュールの変遷

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
道路	計画	電線共同溝整備			多摩川スカイブリッジの整備との調整により、一部整備時期を変更		
	実績	電線共同溝整備				電線共同溝整備	
公園	計画	殿町第2公園改良					
	実績		殿町第2公園改良				
地域生活基盤施設	計画			地区案内サイン整備			
	実績				地区案内サイン整備		
高質空間形成施設	計画	歩道改良			電線共同溝整備の遅延により、一部整備時期を変更		
	実績		歩道改良 エントランス部				歩道改良 エントランス部以外

3. 各計画事業の進捗状況

～塩浜3丁目周辺地区①～

●事業概要

・「塩浜3丁目主変地区土地利用計画(H29.5月)」に基づき、地区の価値を高める基盤整備として幹線道路へのアクセス改善及び新たに導入する機能の効果を発現させるため、塩浜3丁目周辺地区の土地利用を支える基幹的道路の整備を図る。(支障物件移設の減により計画変更)

【位置図】

塩浜26号線の拡幅整備は、交通の拠点機能の安定的稼働、需要に対応した臨海部バス機能の強化への対応として、重要な事業となっています。

- ・整備対象延長 約400m
- ・整備内容 道路拡幅・歩道整備

出典：塩浜3丁目周辺地区土地利用計画

【工事概要】

現況

計画

市道塩浜67号線

市道塩浜26号線

入江崎水処理センター

整備延長 L=約400m

写真①

写真②

写真③

殿町夜光線

現況 → 完成の 主な変更点	
道路中心線	現道から入江崎水処理センター側に約10m移動 ※臨海鉄道跡地が道路になる
車道幅員	4.7m → 7.5m
大型車交互通行	不可 → 可能
歩道	なし → 両側歩道

【現況】

写真①

現 塩浜26号線

臨海鉄道跡地

写真②

現 塩浜26号線

臨海鉄道跡地

写真③

現 塩浜26号線

臨海鉄道跡地

写真④

現 塩浜26号線

臨海鉄道跡地

【期待される効果】

- ・大型車が安全に通行できることにより、バス(営業車)走路としての活用が可能
- ・将来的なバス増車や連節バスによる川崎臨海部全体の交通ネットワーク強化が可能
- ・交通ネットワーク強化により川崎臨海部の更なる活性化が期待される

3. 各計画事業の進捗状況

～塩浜3丁目周辺地区②～

●整備スケジュールの変遷

- ・これまで 下水管の詳細設計を実施し、敷設工事をR4年度に完了。
道路拡幅については、詳細設計をR4年度に完了。
- ・現状 道路予定地（拡幅部）の一部が、他事業下水道（推進）工事によって土地利用されている。
- ・今後 他事業下水道工事とのスケジュールや、地元町会の土地利用について整理を行い、工事着手時期を調整する。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
計 画			道路設計		道路整備		
		下水道設計		下水道等 占用工事			
実 績				道路設計		道路整備	
		下水道 設計		下水道 工事	他占用工事		

●関連工事

(下水道工事)



人孔・管路設置（下水道）

他事業の区域内占用工事の影響により約1年遅延

3. 各計画事業の進捗状況

～既存ストック活用事業費補助～

●事業概要

- ・コロナウイルス感染症対策とまちの新たな魅力活力の創出を両立する既存ストックのリノベーション事業を「地域創造支援事業」として実施する。
- ・補助対象経費は、リノベーションのために必要な改装等工事に係る経費のうち、コロナウイルス感染症の対策や、まちの賑わい創出や地域コミュニティの活性化に資するものとしている。

<事業イメージ> ビジネスヴィレッジ川崎 ～食事付きビジネス旅館～

まちなみを活かしたリノベーションを実施し、リニューアルした常設食堂「ブルーヴィレッジレストラン」
(改修時期と交付金手続きのタイミングが合わず、市費の助成により実施)



開かれた空間を感じる入りやすい路面部の改修



利用者同士が繋がる明るい空間を創出するとともに、
アクリル板を設置したコロナウイルス感染症の対策を実施

(写真「ビジネスヴィレッジ川崎」ホームページより)

4. 評価指標等の達成状況

●成果目標の設定

- ・ 鉄道等の既存ストックを活かした公共交通の機能強化を図り、他のエリアからも人が集まる広域的な就業地を支え、持続的な発展に寄与する利便性の高い公共交通機能の整備を目指すとともに、羽田空港との近接性を活かした連携強化により高度な研究開発機能や企業の集積を図り、臨海部の持続的な発展を先導する活力ある拠点形成の整備に向け、大師橋駅の交通拠点としての役割が重要となる。
- ・ 川崎臨海部における交通機能強化の効果を測定する根拠として、大師橋駅駅前広場の整備に伴う交通ネットワークの再編により、大師橋駅を利用した通勤時間の短縮及び駅乗降者数の増加により定量的に評価することとしており、新たなバス路線による臨海部への所要時間及び、バスの起点となる駅の乗降者数の状況を成果指標としている。

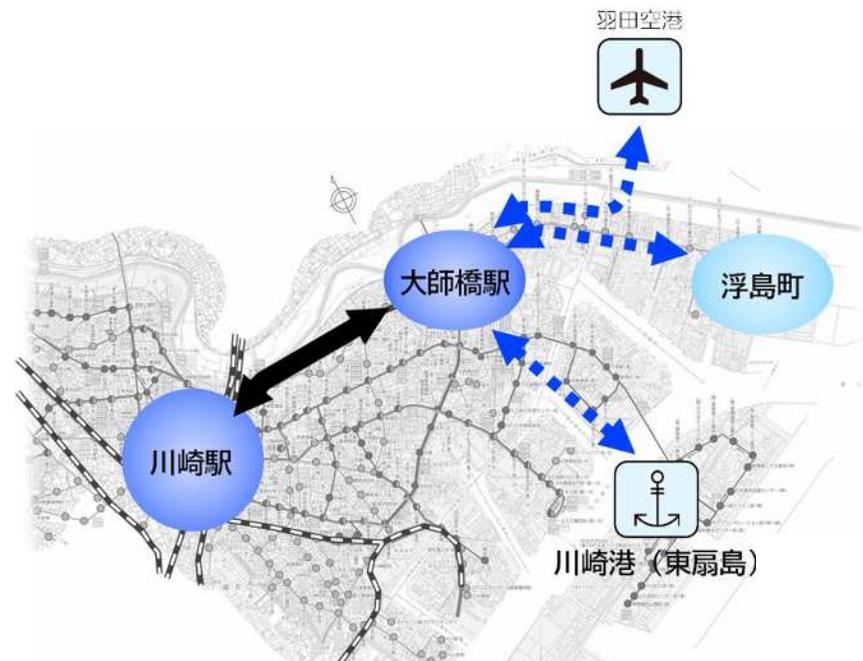


図 大師橋駅を起点としたバス路線再編イメージ
(「臨海部の交通機能強化に向けた実施方針」より)

4. 評価指標等の達成状況

●成果目標の達成状況

- ・ 大師橋駅駅前交通広場等の整備事業が未完成であり、交通機能強化に向けた交通結節機能やネットワークの充実に對する効果が発現されていないため、評価指数での達成状況は「未達成」となる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響でテレワークが広がるなど働き方が多様化し、鉄道利用者数が減少した。

評価項目	当初値	目標値	実績値	達成状況
川崎駅から臨海部（東扇島西公園）への通勤所要時間（往復）所要時間	78分	67分	—	未達成
京急大師線大師橋駅の乗降者数	10,100人/日	11,100人/日	— 8,910人/日 (R3年度実績)	未達成

4. 評価指標等の達成状況

●成果目標の達成状況（補足的に設置した指数）

- ・ 殿町地区（キングスカイフロント地区）での立地機関及び従業員数が増加している。
- ・ 多摩川スカイブリッジの整備や殿町第2公園の改良をはじめとする都市機能の強化により、拠点地区としての価値が高まっていると考えられる。

年度	H29	R4
立地機関数	55社	70社
従業員数	4,500人	5,000人

*H29年度まで進出した機関等と比べて、それ以降はレンタルラボを利用する機関等の研究部門の進出が多くなったことから、従業員数の増加割合は変化している。

キングスカイフロント立地企業アンケート（川崎市調べ）

4. 評価指標等の達成状況

●社会資本整備総合交付金を充てた事業の進捗状況

対象事業	当初	評価時	実績 (R5末時点)	進捗率	進捗状況
大師橋駅 駅前交通広場	444百万円	499百万円	35百万円	7.0%	継続
殿町地区	500百万円	466.8百万円	311.4百万円	66.7%	継続
塩浜26号線	375百万円	156.8百万円	79.8百万円	50.8%	継続
全体事業費	1,319百万円	1,122.6百万円	426.2百万円	38.0%	

国費：191.7百万円
市費：234.5百万円

5. 総合的な所見

- 本計画期間中に完了した事業により、殿町地区では良好な景観形成が進むとともに、アクセシビリティが向上し、魅力的な都市環境が形成されたことで、研究機関等の集積が進んでおり、選ばれる研究開発拠点としての価値が向上していることが確認された。
- 一方で、本事業の目的の1つである「国際競争力の強化」に関しては、アンケート結果により地域内の企業・事業所の連携に好影響を与えていることなどが見られたものの、効果を確認するためには、新たな研究・開発の着手件数や来客者・施設利用者数などの客観的な評価項目の動向を把握する必要があり、引き続き、継続的な調査を実施していく必要があると考えている。

5. 総合的な所見

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、鉄道利用者が著しく減少し、勤務形態がテレワークに移行するなど、社会情勢やライフスタイル等の変化があったことから、社会情勢等の変化を踏まえて、事業の効果を適切に捉える必要がある。

6. 今後の方針

- 魅力的な都市環境の形成や羽田空港と各サポートエリアとの拠点間の円滑な移動を実現するなど、川崎臨海部の拠点形成による国際競争力の強化及び交通ネットワークの充実に向けて、引き続き、事業の推進に取り組む。
- 「川崎臨海部の活性化を牽引する戦略的な拠点形成及び交通機能強化」に関する計画を継続し、大師橋駅駅前広場などの拠点形成の推進を図り、事業効果の早期発現を目指す。
- 既存ストック活用事業費補助については、「ウィズ・コロナ」「ポスト・コロナ」時代を捉えた、まちの面的な魅力創出の促進に取り組む。
- 今後の事業評価については、社会情勢やライフスタイルの変化に鑑み、臨海部企業のテレワーク実施や鉄道等の乗降者数の変動等を踏まえて評価指標を設定し、適切な事業効果を確認する。